

事例 運送業者が地域農業を元気にする取組(塩谷南那須地域)

さくら市にある運送業(株)高野商運は、地元農産物の運送業務を行う中、農家の後継者不足に危機感を持ち、「農業で地元を元気にしたい」との思いから、平成26年に農業生産法人「和みの杜」を立ち上げました。当初は農地所有者から信用を得られず、農地を増やすのに苦労しましたが、真剣に農業に取り組む姿勢が認められ、農地が集まってくるようになりました。

現在、水稲12ha、さつまいもやなすなどの露地野菜13haのほか、いちご35aを栽培し、常時雇用と季節雇用を合わせて50名ほどが従事しています。さつまいもについては、近隣農家から購入した分も含め、地元の旧小学校舎を改修した加工所で、干し芋に加工し、道の駅などで販売しています。また、令和2年は県オリジナルのもち性大麦品種「もち絹香」を栽培し、商品化にも取り組みました。



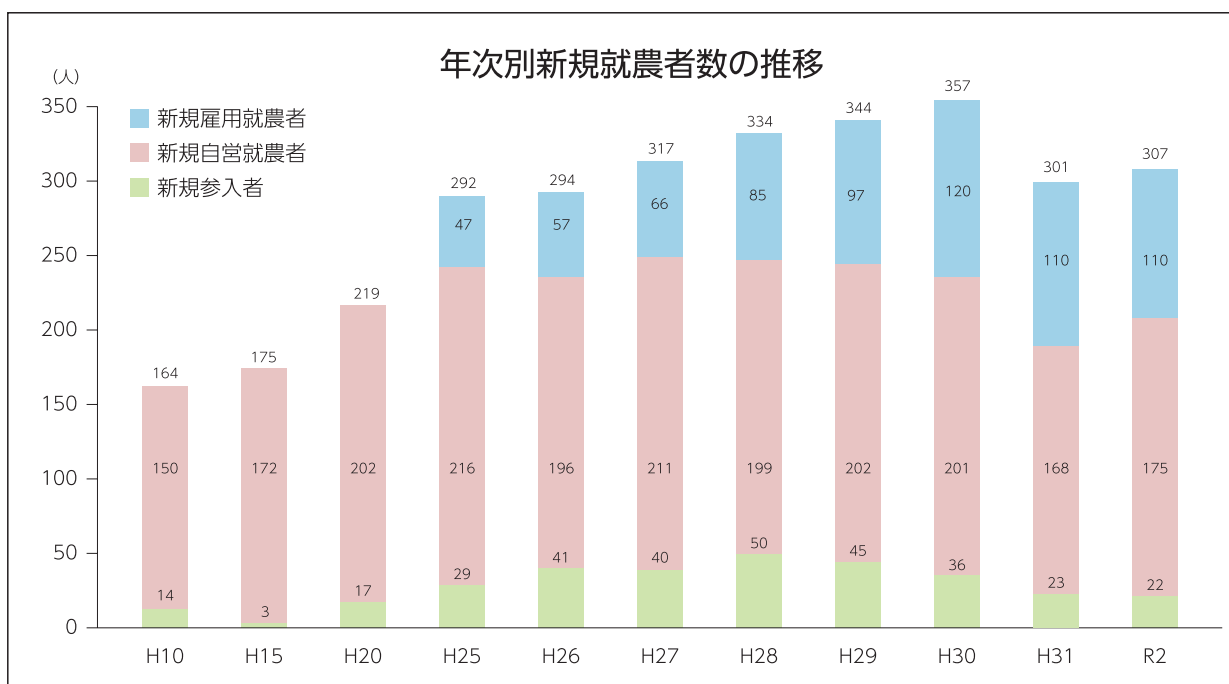
いも類の大型収穫機



なすの定植作業

(3)新規就農者の確保・育成

令和2年度の新規就農者数(新規自営就農者及び新規雇用就農者)は307名で、前年度から6名増加しました。このうち、青年農業者(18~44歳)数は228名で全体に占める割合は74%となっています。

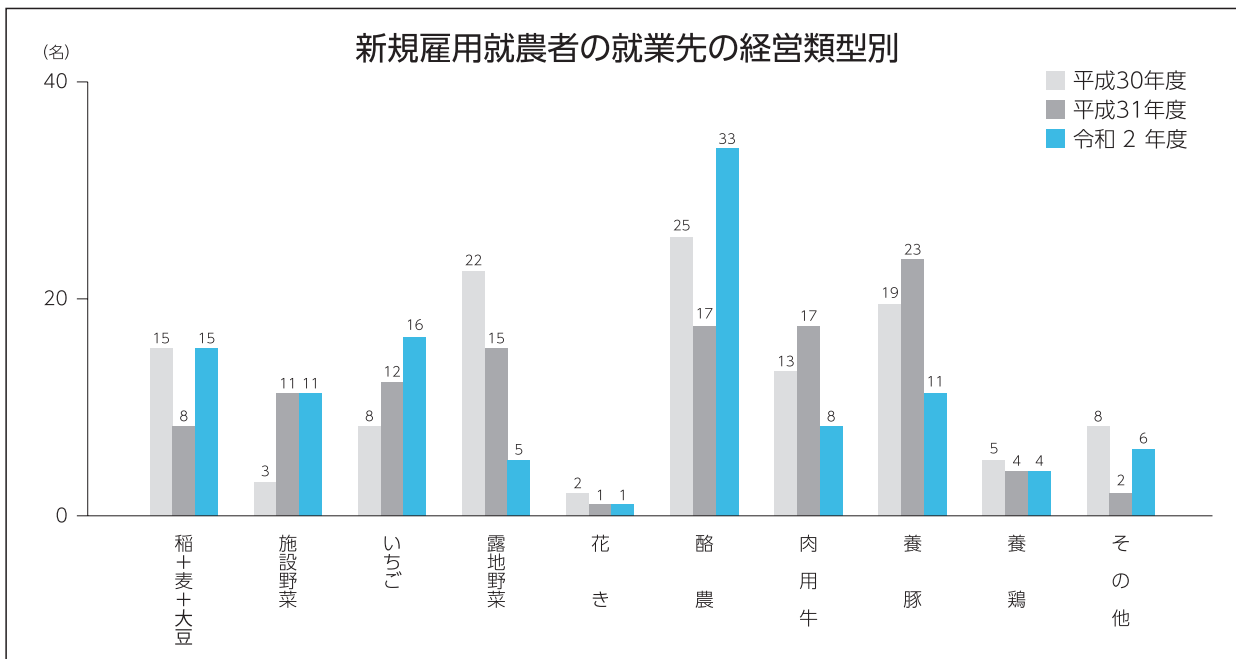
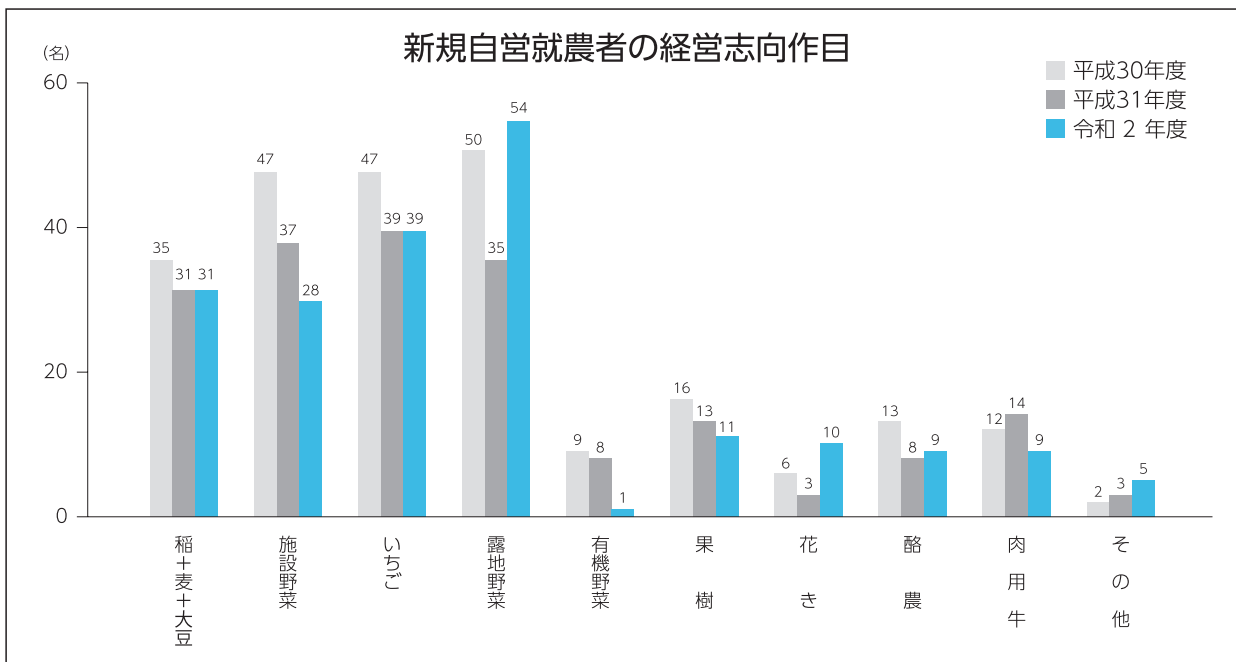


就農形態としては、新規自営就農者(農家出身者)が175名(57%)、新規自営就農者(新規参入者)が22名(7%)、新規雇用就農者は110名(36%)です。

新規自営就農者の経営志向作目は、露地野菜(54名、27%)、いちご(39名、20%)、稲麦大豆(31名、16%)が多く、約6割を占めています。

また、新規雇用就農者の就業先の経営類型は、酪農(33名、30%)、養豚(11名、10%)、及び肉用牛(8名、7%)等の畜産が約5割、野菜(施設野菜、いちご、露地野菜、計32名)が約3割を占めています。

県では、希望者が円滑に就農できるよう、就農相談や各種啓発活動を行っています。農業への感心は引き続き高い水準にあります。今後とも意欲ある新規就農者を確保していくため、とちぎの農業の魅力を発信していくとともに、就農支援情報や就農環境の充実に加えて、とちぎ農業未来塾等での研修機会の提供など、県内外、農内外からの就農人材の確保・育成を図っていきます。



## 事例 「未来へつなぐとちぎ農業フォーラム2020」の開催

若者の就農意欲を喚起し、次代を担う農業人材の確保・育成を図るため、農業を学ぶ高校生等約130名を対象に、令和2年12月8日に「未来へつなぐとちぎ農業フォーラム2020」を開催しました。

第1部では、「農業をはじめました！農業の魅力と可能性」をテーマに雇用就農、親元就農、部門経営を開始した若手農業者3名が事例発表し、第2部では、若手農業者と高校生・農大生とのディスカッションを行いました。「農業のやりがい」や「農業は稼げる仕事か」などの高校生の疑問に若手農業者が答えるとともに、就農へのアドバイスやエールを送りました。

フォーラムに参加した高校生・農大生からは「農業の新たな魅力や可能性を感じた」、「将来農業をしてみたい」との感想が多く寄せられました。



若手農業者による事例発表



農業者×高校生・農大生ディスカッション

## 事例 栃木県酪農スクールセミナーの開催

新型コロナウイルス感染症の拡大により、第15回全日本ホルスタイン共進会(宮崎県開催)が中止となったことから、県内の農業関係高校4校の生徒と農業大学校の学生における意欲高揚及び本県の酪農振興を図るため、栃木県酪農協会が「栃木県酪農スクールセミナー」を開催しました。

当日は、ホルスタイン種未經産牛の骨格や強健性等を審査するジュニアショウが実施され、各校の生徒や学生が共進会に向けて努力してきた成果を披露しました。また、講習会では、牛を引く際のポイントや飼養管理技術について学びました。

今回の取組を契機に、酪農の担い手確保・育成が図られるとともに、酪農家や酪農関係者の技術向上等による本県酪農の持続的な発展が期待されます。



ジュニアショウにおける牛の審査



講習会の様子

### 事例 地域ぐるみで取り組む新規就農者受入体制の設立(塩谷南那須地域)

南那須地域における産地の維持拡大には、新たな担い手の確保が必要であることから、関係機関と連携して農作業体験会や「新・農業人フェア」への出展等を実施してきました。その結果、受入体制整備の機運が高まり、令和2年11月に「南那須地域新規就農者支援対策協議会」が設立されました。

この協議会は、JAなす南が事務局となり、市町等関係機関によって構成され、地域内外からの人材募集、就農相談、先進農家における技術指導、更に農業次世代人材投資事業の活用、農地のあっせん等、就農準備から定着まで一貫して支援します。

令和3年4月には、農家の受入体制が整った「なし」について、農作業研修プログラム「南那須農業アカデミー」を開講する予定です。



南那須地域新規就農者支援対策協議会設立総会



技術習得研修は梨部会研究部にお任せあれ!

### 事例 酪農経営に5年ぶりの新規参入(那須地域)

那須地域では、関係機関・団体が連携して後継者や新規参入者の確保育成に取り組んでいます。那須地域農業の主力分野である酪農においては、経営開始に係る初期投資が特に大きいことから、農外からの新規参入が極めて少ない状態となっています。

そこで、酪農で新規参入の相談があった希望者に対し、支援チームを編成し、遊休資産情報の収集・提供、経営資源有効活用リフォーム支援事業や農業次世代人材投資事業(経営開始型)の紹介、栃木県酪農業協同組合事業や就農支援資金等の活用、経営開始時の初任牛導入に対する技術支援などを実施してきました。

丁寧な相談対応ときめ細かな経営・技術支援により、令和2年7月、5年ぶりとなる新規参入者が那須塩原市において経営を開始することができました。今回の就農事例を契機として、関係機関・団体を含めた就農者獲得及び定着支援体制の確立が期待されます。



リフォーム前の牛舎



リフォームした牛舎と導入した乳牛

**事例 中学生に対する農業理解促進の取組(安足地域)**

中学校等5校で「進路講座」、「生き方教室」等の職業教育の時間に農業者4名が招かれ、「1億円プレーヤーを目指して」、「農業はどんな仕事？」などと題して、就農した経緯、自ら実践している農業とこれからの農業、職業観、中学生に伝えたいことなどについて講話が行われました。

講師の「失敗してもやり直せるので、いろいろなことを体験してほしい」、「農業は自由に仕事ができるが、責任が伴う」等の話を聞き、生徒からは、「積極的に行動していきたい」と前向きな感想も出されるなど、将来の生き方について深く考えるきっかけになりました。また、農業分野においてAIやIoT等の先端技術が使われていることを知って、農業のイメージが変わり、興味・関心が高まったようです。

農業者の話が生徒にとって、将来の職業を選択する際の参考になればと思います。



佐野市立あそ野学園義務教育学校



足利市立第三中学校

**事例 いちご新規就農者の確保・育成に向けた取組(安足地域)**

安足地域では、就農希望者の相談内容について、関係機関で共有し、連携して情報の提供と支援内容の重点化を図り、新規就農者の確保・育成につなげています。

こうした中、いちごでの就農を希望した7名に対して、足利市及び佐野市の新規就農塾や農業大学校におけるとちぎ農業未来塾への研修誘導、各種相談や情報提供など、きめ細かく対応してきました。

さらに、就農計画の早期実現に向けて、産地パワーアップ事業等の補助事業を活用した生産用施設等の整備を支援するとともに、初めてのいちご栽培となることから、これらと並行して栽培技術に関する相談・指導活動に重点的に取り組んできました。その結果、7名全員が目標としていた就農・年内出荷を実現しました。

今後は、新規就農者の定着のための取組をより一層強化していきます。



新規就農塾生への栽培管理指導



新規就農者へのいちご目揃え指導